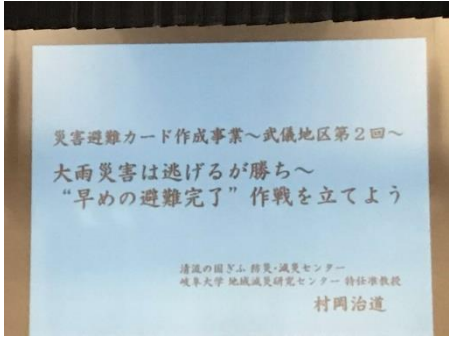


1人ひとりが避難の手順を決めるプロジェクト 事例集

【市町村名、地区名】 関市武儀地区、上之保地区、富野地区	
【名称】 一人ひとりが安全な避難を考える勉強会	
【対象者】 関市各地区の住民	【人数】 以下参照
【取組みのきっかけ】 <p>平成30年7月豪雨の際に、「どこに避難すれば良いか」という問い合わせが市役所に多数あり、住民の方が避難のための安全な場所が分からないという実態があった。</p> <p>また、平成30年度に実施した上之保地区のモデル事業を経て、取組みを市内の各地区に展開し、災害に強い関市づくりを目指す。</p>	
	
【実施までの運び】	
○主催者 関市危機管理課	
○活用した機会 平成31年度から災害・避難カード作成事業を実施し、防災講演会や住民勉強会等の機会を創設した。	
○取組みの全体計画 全4回の取組みを一連の流れとし、武儀地区26自治会、上之保地区8自治会、富野地区19自治会があるなかで各地区の住民を対象とした災害リスクについての全体講話の実施、自治会や消防団の代表者等地域で核となるリーダーの養成を経て各自治会単位で独自に災害・避難カードの取組を行い、さらには避難所開設等の防災の仕組みづくりに繋げることで、災害に強い地域づくりを目指す。	
〔第一回〕 各地区にお住いの住民を対象に、平成30年7月豪雨を受けた課題や取るべき行動を改めて考え、地区全体で共有をすることで災害に対する意識の向上を図る。	
〔第二回〕 各自治会、各組織の代表者等向けに、防災に関する意識付け、住民が同じ方向を向くためのきっかけづくりを実施し、取組みをけん引する地区のリーダーの養成を行う。	
〔第三回〕 各自治会の住民が参加し、自治会の住民一人ひとりが災害リスクについて考え、避難の手順を決めて災害・避難カードを作成する。	
〔第四回〕 第一回～第三回までの取組を踏まえ、各自治会が主催する。自治会単位での災害に備える仕組みづくり（避難所開設等）の合意形成の話し合いを継続して実施。	

【実施内容】

第1回 地区別講演会

- 講師：清流の国ぎふ防災・減災センター 村岡准教授
- 実施日：武儀地区 6月14日（金）19：30～21：00 29名参加
上之保地区6月21日（金）19：30～21：00 102名参加
富野地区 8月2日（金）19：30～21：00 40名参加
- 周知・案内
関市から開催地域にお住まいの方へ案内文書の配布や自治会長からの参加の呼びかけを実施。
開催地域限定で同報無線放送及び登録制メールの配信により周知。
- 事前準備
会場準備：説明用パワーポイント
配布資料：関市土砂災害ハザードマップ、屋内危険性チェック
- 当日の講師・スタッフ
講師1名（清流の国ぎふ 防災・減災センター 村岡准教授）
スタッフ5名（市危機管理課4名）
- 流れ
事業概要の説明（危機管理課）（5分）
防災に関する講演（岐阜大学講師）（70分）
避難に関する市からのお願い事項（10分）
今後の取組みについて（5分）

第2回 地区別全体勉強会

- 参加者：自治会長、防災部長、防災組織役員（指導員、友の会など）、消防団員、社協役員、民生委員、駐在所署員、中濃消防組合、小中学校職員、PTA役員、保育園職員など地域の推進役になってもらう方
- 実施日：武儀地区 8月1日（木）19：00～21：00 46名参加
上之保地区8月27日（火）19：00～21：00 48名参加
富野地区 9月19日（木）19：00～21：00 32名参加
- 周知・案内
関市から開催地域にお住まいの方へ案内文書の郵送や自治会長からの参加の呼びかけを実施。
- 事前準備
会場準備：説明用パワーポイント、洪水ハザードマップ、サインペン（人数分）、付箋
配布資料：次第、関市土砂災害ハザードマップ、伊勢湾台風フォーラム案内チラシ
災害・避難カード（A3判）
※災害・避難カードは岐阜大学村岡准教授監修のもと関市で独自に作成。
- 当日の講師・スタッフ
講師2名（岐阜大学防災・減災センター 村岡准教授、小山准教授）
スタッフ8名（市危機管理課5名、県防災課3名）
- 流れ
本日の趣旨説明（関市危機管理課）（5分）
武儀地区の取組みの説明（関市防災部長、岐阜大学講師）（20分）

ワークショップ（岐阜大学講師）（90分）

次回の勉強会について（5分）

第3回 自治会ワークショップ

○参加者：各自治会の住民

○実施地区：武儀地区 26自治会（6回） 約15名/回

上之保地区 8自治会（3回） 約24名/回

富野地区 19自治会（5回） 約19名/回

各19:00～21:00

○周知・案内

関市から開催地域にお住まいの方へ案内文書の配布や自治会長からの参加の呼びかけを実施。

開催地域限定で同報無線放送及び登録制メールの配信により周知。

○事前準備

会場準備：説明用パワーポイント、洪水ハザードマップ、サインペン（人数分）、付箋

配布資料：災害・避難カード（A3判）、関市土砂災害ハザードマップ、アンケート調査票

○当日の講師・スタッフ

講師1名（岐阜大学防災・減災センター 村岡准教授）

スタッフ4～6名（市危機管理課2～4名）

○流れ

本日の趣旨説明（関市危機管理課）（5分）

ワークショップ（岐阜大学講師）（110分）

自治会での防災会議の実施依頼（5分）

第4回 各自治会主体の防災会議

○趣 旨：各自治会で、避難所開設等の合意形成の話し合いを継続して実施する。

○自治会名：自治会連合会武儀支部

○取組内容：地区防災計画策定のための協議の実施

○実施日：令和元年6月28日、8月29日、11月28日

市が実施する災害・避難カード作成事業と並行して、武儀地区自治会長会において地区防災計画作成の協議を実施。

《第1回目》

武儀地区講演会を経て自助の重要性を理解したうえで、自治会の現状の防災体制を再確認。

《第2、3回目》

地区住民が自治会ワークショップで災害・避難カードの取組を実施し、早めの避難や日頃からの備えの重要性を認識したことを受け、地区全体での避難方法や、平常時の防災訓練等、地区防災体制の構築を行う。

上記の取組みを通して武儀地域の防災計画を策定することで、地域内の防災力強化を図る。今後は、自治会長会等で策定した計画の定期的な見直しを実施する予定。

【カードの様式】

非常持ち出し品の例	すぐに持ち出せるもの	備蓄品の例	すぐに取っ出せるように(収納)を用意
<input type="checkbox"/> ヘルメット(防災ずきん)	<input type="checkbox"/> ライター	<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日あたり1.5ℓ)	<input type="checkbox"/> 食料(1週間分)
<input type="checkbox"/> 飲料水(500mlペットボトル4個)	<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー	<input type="checkbox"/> 毛布または寝袋	<input type="checkbox"/> 熱湯(1ℓ)(調理・1ℓ)
<input type="checkbox"/> 食糧	<input type="checkbox"/> 避難用具	<input type="checkbox"/> ブルーシート(寝具、風呂用)	<input type="checkbox"/> 30分経
<input type="checkbox"/> アルファ米、まよろし、ビスケット、缶詰の缶詰・缶詰食品	<input type="checkbox"/> スポーン・シャベル	<input type="checkbox"/> 食糧	<input type="checkbox"/> 避難用テープ
<input type="checkbox"/> 懐中電灯・手電筒の電池	<input type="checkbox"/> 避難用具	<input type="checkbox"/> アルファ米、缶詰、ビスケット、缶詰の缶詰食品	<input type="checkbox"/> ネットン用テープ
<input type="checkbox"/> 懐中電灯の電池	<input type="checkbox"/> 貴重物品	<input type="checkbox"/> 菓子類	<input type="checkbox"/> ※必要に応じて、紙おむつ、紙ナプキン、生理用品など
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> 貴重物品、現金、財布、薬、避難用具、現金、現金用紙など	<input type="checkbox"/> 避難用具	
<input type="checkbox"/> 貴重物品(現金、現金用紙など)	<input type="checkbox"/> 薬	<input type="checkbox"/> 次期(下着、セーターなど)	
<input type="checkbox"/> 貴重品	<input type="checkbox"/> 折り畳み(二重)	<input type="checkbox"/> 新聞紙	
<input type="checkbox"/> 折り畳み	<input type="checkbox"/> 折り畳みカゴ	<input type="checkbox"/> 傘	

※風呂の排水は詰まらせないで排水し、必要に応じて風呂水や湯をため、必要に応じて飲料水として利用できるようにしておきます。
※持ち出し品は、事前に持ち出し場所を確認し、必要に応じて持ち出し場所を確認してください。

インターネットによる情報入手先

国・自治体 市の住所 市の住所検索サービス 住所: <input type="text"/> https://www.city.akita.jp/	国・自治体 国土交通省 国土交通省の防災情報 住所: <input type="text"/> https://www.mlit.go.jp/
国・自治体 国土交通省 国土交通省の防災情報 住所: <input type="text"/> https://www.mlit.go.jp/	国・自治体 国土交通省 国土交通省の防災情報 住所: <input type="text"/> https://www.mlit.go.jp/
国・自治体 国土交通省 国土交通省の防災情報 住所: <input type="text"/> https://www.mlit.go.jp/	国・自治体 国土交通省 国土交通省の防災情報 住所: <input type="text"/> https://www.mlit.go.jp/

緊急メール

緊急メールは、災害発生時の緊急情報や、避難指示などの緊急情報を、携帯電話のメールで配信します。

QRコード ●ご利用いただくには、事前に登録が必要です。下記アドレスからメールを送信し、QRコードのリンク先からメールを送信してください。	QRコード ●登録完了後、自宅の防災情報や、災害発生時の緊急情報などを、QRコードのリンク先からメールで配信します。
--	---

テレビによる情報の入手例

- ①NHK総合テレビを視聴し、リモコンの「e(データ放送)」ボタンを押してください。
 - ②リモコンの表示で「防災生活情報」に合わせて、「決定」ボタンを押してください。
 - ③画面テレビに設定されている郵便番号で特定の情報が提供されれば、「避難生活情報」「避難生活情報」などのメニューが選択可能になります。リモコンの表示で「決定」ボタンを押してください。
- ※画面内での情報にも情報が無い場合は、メニューがグレーになります(選択できません)。

「自分の命は自分で守る」ための 災害・避難カード

※「災害・避難カード」とは、気象情報や河川の水位、市の避難情報などを活用し、「どのような情報をもとに」「いつまでに」「誰と」「どこに」避難を完了するかについて、地域で話し合っておくことで作成するものです。

手順① 安全に避難が完了するまでの所要時間を書きましょう。

我が家の避難先(安全な場所)は？ (A) 家族が離ればなれになったときの集合場所は？

避難先まで行くのに片道何分？	平常時	豪雨時	避難を判断してから家を出るまでに何分？
①徒歩なら	分	分	④ 分
②車なら	分	分	⑤ 分

※避難先は車で避難は危険ですので「使用不可」として記入しませぬ。

◆避難を判断してから、避難先(A)に到着するまでの所要時間は… <避難所要時間>
 平常時の合計時間 豪雨時の合計時間

徒歩なら	車なら	徒歩で
分	分	分

<①②③④の合計時間を記入> <②④⑤の合計時間を記入> <③④⑤の合計時間を記入>

手順② 「誰と」「何を持って」避難しますか？

誰と避難しますか？ 連絡先は？

何を持って避難しますか？ ※避難開始までの時間を短くするために、事前に「非常持ち出し品」の準備をしておく！

手順③ わが家の警戒体制と避難のタイミングを書きましょう。

安全に避難するには、河川水位、雨量、テレビの情報、市の避難情報などに警戒することが大切です。あなたは「どのような情報をもとに、その情報」どうやって入手する「のか、「どんな行動をとる」のかを明確にしておく！

気象情報の変化	雨量(台風)が接近	注意報	警報	大雨特別警報
Q1: どのような情報に警戒しますか？				
Q2: その情報は、どうやって入手しますか？				
Q3: どのような行動をとりますか？				
Q4: いつまでに避難を完了しますか？そのためにいつ避難を開始しますか？				

作成：令和元年度「災害・避難カード作成事業」 / 市長公室 危機管理課
 〒501-8694 岐阜県関市西草津2丁目1番地 <https://www.city.akita.jp>

【取組みの状況】

○取組みの趣旨説明（関市危機管理課長）



○講師による災害・避難カードの説明



○7月豪雨の行動を振り返る参加者



○完成した災害・避難カード

「自分の命は自分で守る」ための 災害・避難カード

※災害・避難カードとは、気象情報や河川の水位、車の避難情報などを活用し、「どのような情報をもとに」「いつまでに」「誰と」「何を」避難をするかについて、地域で話し合っておくことで作成するものです。

◆手順① 安全に避難が完了するまでの所要時間を書きましょう。

我が家の避難先(安全な場所)は？ (A) 避難が開始されたらいつまでに避難完了するかの目安は？

全避難先まで行くのに片道何分？ 平常時	避難時	避難を判断してから家を出るまでに何分？ ④ 〇分
①徒歩なら 〇分	③徒歩なら 〇分	⑤ 〇分
②車なら 〇分	④車なら 〇分	⑥ 〇分

◆避難を判断してから、避難先(A)に到着するまでの所要時間は… <避難所要時間>

平常時の合計時間	避難時の合計時間
徒歩なら 〇分	徒歩で 〇分
車なら 〇分	車で 〇分

<①④⑤の合計時間を記入> <②④⑤の合計時間を記入> <③④⑤の合計時間を記入>

◆手順② 「誰と」「何を」避難しますか？

誰と避難しますか？ 連絡先は？

何をを持って避難しますか？ ※避難開始までの時間を短くするために、事前に「非常持出品」の準備をしておく！

◆手順③ わが家の警戒体制と避難のタイミングを書きましょう。

安全に避難するには、河川水位、雨量、テレビの情報、市の避難情報などに留意することが大切です。あなたは「どのような情報を警戒し、その情報は「どうやって入手する」のか、「どんな行動をとる」のかを明確にしておきましょう。

気象情報の変化	雨雲(台風)が接近	注意報	警戒	大雨特別警戒
Q1: どのような情報に警戒しますか？	〇	〇	〇	〇
Q2: その情報は、どうやって入手しますか？	〇	〇	〇	〇
Q3: どんな行動をとりますか？	〇	〇	〇	〇

いつまでに避難完了しますか？そのためにいつ避難開始しますか？

いつまでに「避難完了」するかを書き、手順①の避難所要時間を逆算して「避難開始」のタイミングを記入します。

【今後の展開】

第3回自治会ワークショップに参加できなかった方への対策として、災害・避難カードと活用方法の解説を対象地域の全世帯に配布すると共に、自治会単位で第4回の防災会議を計画していただくよう促す。

次年度は浸水や土砂災害が懸念される6地域（板取・洞戸・武芸川・千疋・保戸島・下白金）に対して事業を実施し、その後数年をかけて市内全域に展開する。